

登山 今ドキデ

すばらしい花が
山一面に咲き乱れ

◆佐久・茂来山、飯盛山

▽8月17、18日▽静岡・三島勤労者山岳会(後藤隆徳、あい子、菜央子(次)、正登(次)、藤巻郁雄、加世子、友己(次)、直己(次))

16日は曾原温泉泊。17日、快晴。車で下見しておいた横沢林道をつめて茂来山の登山口へ。少し入ったところに「標高一二〇〇」の標識を見る。

8時45分、カラマツのなかの道を出発。右手に横沢が流れている。フシグロセンノウの花が咲いている。沢の水がなくなるところから急登になり、カラマツとシラカバの林のなかをジグザグ登っていく。シラカバ林がとくに美しい。

一四五六、峰へ着くと、道はさらに急になり、少し岩場

も出てきた。足を滑らせながら登り切ると、主尾根へ出る。樹木が密生して展望はない。だが、ここまでくると頂上はもうすぐだ。子どもたちもがんばる。二七の頂上を過ぎ、一気に一七七一の頂上へ。11時15分。

360度の素晴らしい展望だ。ただ少し雲もあるので浅間山の煙は確認できない。1時間ほどゆっくりしたあと下山。登山口へ14時半。いい山だった。

18日は飯盛山(一六五三)に登る。花が素晴らしいかった。マツムシソウ、フシグロセンノウ、クガイソウ、シモツケソウ、ワレモコウ、グンナイフウロなどの花が山一面に咲き乱れていた。(後藤隆徳)

雪田から落ちる
水でのどのおし

◆鳥海山

▽8月11、12日▽大阪・新日本婦人の会吹田支部野山を歩く会(喜多亨ほか11人、11日朝、70代2人を含む12



展望のよい茂来山頂上で記念撮影

人(うち男性2人)は、宿舎の鶴泉荘をジャンボタクシーなどで出発。奈曾の白滝へ立ち寄り9時半五合目の峠立へ。この日は一年に何回もないという快晴で、北は男鹿半島・寒風山、南西には日本海のはるか彼方に佐渡まで望まれる好天に恵まれた。

9時50分出発。三年前につくられた石畳の登山道に登って、11時に賽ノ河原へ。ニッコウキスゲとキンコウカが黄色に咲き乱れ、ミヤマリンドウとキボシは紫の花を咲かせている。

昼食後、ひとがんばりして13時7分七合目の御浜着。眼下に鳥海湖、前方に鳥海山頂を望む素晴らしい展望。そして足もとにはハクサンフウロやハクサンシヤンなどのお花畑。

14時、ザックを宿舎に置いて鳥海湖(お釜)周辺のハイキングに出かける。鳥海湖の西斜面に大きな雪田があって、そこまで3000以下ると、付近はハクサンコザクラの群落だ。雪田から流れ落ちる手の切れるような冷たさの水のどをうるおし、西側尾根のお花畑を回って宿舎へ戻る。夕食後の18時半、夕日が日本海に沈む光景に、全員屋外へ出て「素晴らしい」「美しい」を連発する。

12日、前日地元の人が「山が近く見えるときは荒天になる」といっていたとおり、4時に起床すると外は霧雨。山頂へ向かう計画を下山に変更し、5時出発。

宿舎を出たところで雷鳴がとどろき、大雨となる。このため宿舎へ戻って天候の回復を待ち、7時出発。雨の降ったりやんだりのなかを9時半、全員元気に五百目峠立の国鉄山の家へ下山。

(喜多 亨)